



<注意>

「収穫〇日前」：定められた使用時期。記載されている収穫前日数まで散布ができます。（前日は24時間前）
 「回数」：農薬成分の総使用回数のこと。栽培期間中、何回散布可能か確認しましょう。

△△店舗により農薬の在庫状況が異なりますので、記載の農薬を購入される場合は購入先の店舗に
 事前に在庫確認をしていただくとスムーズに購入できます。△△

※**網掛け**の農薬につきましては医薬用外劇物となりますので購入時印鑑が必要となります。

【柑橘】 *下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

病害虫防除

6月中～下旬

- 黒点病** ジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100ℓ
【温州みかん】収穫30日前 4回 【温州ミカンを除く】収穫90日前 4回
- ミカンハダニ** アタックオイル 又は ハーベストオイル 又は スプレーオイル
150倍 666ml/水100ℓ
- カイガラムシ類**
- シツバダニ** ハチハチフロアブル(劇) 収穫前日 2回 2,000倍 50ml/水100ℓ 又は
アザミウマ類 コテツフロアブル(劇) 収穫前日 2回 6,000倍 16ml/水100ℓ
(発生園に散布)

※すす病はアブラムシ・コナジラミ・カイガラムシ類の排泄物に繁殖したカビが原因であり、害虫の防除が重要になる。カイガラムシ類の多発園では下記の通りとする。

【温州みかん】アプロードエースフロアブル 収穫14日前 2回 1,000倍

【温州みかんを除く】アプロードエースフロアブル 収穫45日前 2回 1,000倍

※アプロードエースフロアブルはミカンサビダニにも効果あり。

※ミカンナガタムシ・ゴマダラカミキリ成虫の発生園では、
 エクシレルSE 収穫前日 3回 5,000倍 を散布する。

摘果 (大津・青島)

大津・青島は大玉果になりやすいので、表年の樹はこの時期の摘果を控え、10月下旬からの仕上げ摘果で上を向いた極大果だけを摘果しましょう。裏年の樹は7月中旬に全摘果しましょう。

摘果 (不知火・はるみ)

不知火・はるみは樹冠上部に着果させると樹勢の低下につながります。

生理落果が始まったら樹勢強化の為、樹冠上部1/3～1/4は全摘果し樹勢の強化を図りましょう。

【レモン】 *下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

病害虫防除

6月中旬～下旬

- 黒点病** ジマンダイセン水和剤 収穫90日前 4回 600倍 166g/水100ℓ
又はペンコゼブ水和剤 収穫90日前 4回 600倍 166g/水100ℓ
- ミカンハダニ** アタックオイル 又は ハーベストオイル 又は スプレーオイル
150倍 666ml/水100ℓ
- カイガラムシ類**
- アザミウマ類** コテツフロアブル(劇) 収穫前日 2回 6,000倍 16ml/水100ℓ
シツバダニ 又はハチハチフロアブル(劇) 収穫前日 2回 2,000倍 50ml/水100ℓ
チャノホコリダニ

※カイガラムシ類が前年多発した園ではアプロードエースフロアブル 収穫45日前 2回 1,000倍
 又はスタークル顆粒水溶剤 収穫前日 3回 2,000倍を6月上旬に散布しましょう。アプロードエース
 フロアブルとスタークル顆粒水溶剤はアブラムシ類にも効果があります。スタークル顆粒水溶剤はミ
 カンハモグリガにも効果があります。

施肥 6月上中旬

夏肥施用 特選みかん配合655 160kg/10a

【う め】 *下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

病害虫防除 6月上中旬 (漬け梅に散布)

○黒星病・すす斑病 インダーフロアブル 5,000倍 収穫前日 2回 20ml/水100㍓

収 穫

収穫後の取扱いは丁寧におこないましょう。当たり傷はその時は目立たなくとも後日変色し、出荷先や購入者からのクレームの原因となります。

(梅干用) 果実表面の毛じが半分以上脱落し、果面に光沢が出てきた頃になります。

1 樹を1 度に収穫せずに期間を空けて2回以上にわけ、未熟果は出荷をしないようにしましょう。

【キウイフルーツ】

病害虫防除

6月～8月 ○カメムシ発生時 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 収穫前日 3回 50g/水100㍓

6月中旬 ○果実軟腐病 トップジンM水和剤 1,000倍 収穫前日 5回 100g/水100㍓
又は フロンサイドSC 2,000倍 収穫30日前 1回 50ml/水100㍓

○キイロハダカ フェニックスフロアブル 4,000倍 収穫7日前 3回 25ml/水100㍓

夏 肥 6月上旬 キウイ配合 80kg/10a

初期肥大促進のために重要。着果が多くなる場合は、20～40kg増量します。

摘果 2回以上に分けて摘果しましょう。

・荒摘果 6月上～中旬

奇形・扁平・傷・病害・小玉果を除去。荒摘果はできるだけ早く行くと果実肥大が良好になります。

・仕上げ摘果 6月下～7月上中旬

奇形果・傷果・小玉果から摘果する。1㎡あたり25着果を目標に摘果しましょう。

【か き】 *下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

病害虫防除 5月下旬～6月上旬

○カキノハタムシガ・ハマキムシ・ケムシ類 フェニックスフロアブル 4,000倍 収穫7日前
2回 25ml/水100㍓

○落葉病・うどんこ病・炭疽病 スコア顆粒水和剤 3,000倍 収穫前日 3回 33g/水100㍓

追 肥 6月中下旬 柿配合 50kg/10a

摘 果 生理落果が終了する7月中旬までに1 結果母枝2～3果にしましょう。

【水 稲】

水管理 田植え後、4～5日は水温を保つため深水とします。(掛け流しはしない)

以降は3～5cm前後の深さを保ちましょう。

雑草防除 主な除草体系 (例)

通常	一発処理剤 (トップガンR1 ^キ 粒剤など)
雑草多発田	一発処理剤+後期剤 (クリンチャーバスME液剤 など)
ノビエ多発田	一発処理剤+中・後期剤 (ヒエクリーン1 ^キ 粒剤、クリンチャーバスME液剤、クリンチャーEW など)
コナギ多発田	一発処理剤+後期剤 (バサグラン粒剤 など)
クログワイ多発田	クログワイに効果のある一発処理剤 (トップガンR1 ^キ 粒剤など)+後期剤 (バサグラン粒剤、クリンチャーバスME液剤など)
藻類多発田	一発処理剤+モグトン粒剤

* 水稻の一発処理剤 (および初期剤) は、移植後日数の早い時期に散布するよう心がけ、散布後7日間は止め水にし、湛水状態を保ちましょう。

* 水稻除草剤の散布時期は薬剤によって異なるので、ラベルをよく確認しましょう。

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。